

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK



おしっこくしょん駆逐艦編八

Piss-Colle Destroyers VIII



Volume 32 **for ADULT ONLY**

工作艦 明石の機密日誌より

心ここに在らず、という言葉があるけれど。艦娘は「体ここに在らず」とでも言おうか、自分が今ここに存在している感覚を失いかけて、ひどく情緒不安定になることがしばしばある。それはそれで、アイオワさんやイントレピッドさん、最近顕現したばかりの宗谷さんなどごく少数の例外を除くと、ほとんどの艦娘の本来の「体」はよくてどこかの海の底だったり、遊女よろしくジャンク屋に売り飛ばされていたり、とつくに解体されて戦後復興に供出されていたりという有様。「心」だけが人のかたちをとっている、根無し草みたいなものなのだ、私たちは見た目の年齢には関係なく、大型艦でも小型艦でも少なからず抱えるそういう欠落の埋め合わせが、しばしば自慰や性行為で行われる。自分の根源を揺さぶる快感は、疑似的な死と再生であり、自らの存在確認につながる……提督の偏った趣味で始まった艦娘撮影はそんな副産物を生み出し、いまや大いに推奨されるに至っている。まあ、多少の慎みはわきまえつつ。

というようなことを、戦時急造の丁型駆逐艦娘のお嬢さんたち、ようやく姿を見せた叢雲ちゃんの妹や改初春型、ぞろぞろ集いつつある夕雲型などなど、新顔駆逐艦娘に解説したわけである。皆目を白黒させ、「実演」を見て様々な反応を示したりしていたが、最終的に欲求が勝ったようで……あとは、いつもどおりの展開だった。いやー、致しすぎて自分が入渠したいくらいだわ。

吹雪型七番艦 薄雲

下着姿

実に久々に現れた、特型駆逐艦娘はたいへん「らしい」というか……元々この子たちこんな感じだったわよね、というおとなしく控えめな少女。あの、いかがでしょう、と恥ずかしそうに見せた上下そろいの下着もごく普通である。そう、特型はこういう「んー、でもこっそりと素材高めだったりおりボン凝ってたり、我が妹ながらポイント高いですよ」……全力でイメージを覆す長女が遺憾の限りだわ」隣でなんかの評論家っぽくしたり顔の吹雪ちゃん、頭を抱える叢雲ちゃん……。

胸部装甲

たいしたものではないですが、駆逐艦なので……と、ささやかなお乳をはだける様子がいっそ新鮮である。「……十八駆じゃ一番じゃない」隣で口を尖らせる霞ちゃん。「でもあの、先のところ、ぷっくり膨らんでいてかわいい……ですよ」二人とも真っ赤だ。

陰部

「明石、この見せ方には何か意味が!?」「私の趣味」「ぐぬぬい……」「目を回しつゝ不知火ちゃん、薄雲ちゃんともども、制服を着て下半身だけ晒す。……その……下も……二番、ですね」「す、すみません、こんな名前なのに、恐縮する薄雲ちゃんの陰毛は、確かに僚艦よりも少しだけ多めだ。」

性器

ふーっ、ふーっ。興奮して鼻息荒く、薄雲ちゃんが自分の指でおまたを広げ、すでに濡れていた小陰唇どうしが、くちっ……と音を立てて分かれた。こちらには名前通りに色合いも薄く、ついでに小ぶり。陰核もかすかに顔をのぞかせる程度。全体的に少女だ。……と、隣で吹雪ちゃんも滔々と論評していた言葉をそのまま記す。それを聞いた薄雲ちゃん、いっそう興奮したようであ……あ、やっぱり吹雪ちゃんの妹だわこの子。

薄雲、自慰ののち語る

ご存じと思いますが、薄雲は支那事変のころに触雷してしまつて、対米英戦が始まつたときは修理中だったんです。そのあいだに、東雲姉さんが沈んで十二駆もなくなつて、出渠したころにはもう機動部隊も目にする事なく……。叢雲姉さんにはとうとう会えないままでした。本当言うところ……ここへ来た初めてのころは、東雲姉さんや叢雲姉さんのことを忘れていたくらいで。でも、こんな綺麗な優しい女の子が叢雲姉さんで、嬉しいです。それに、北方と一緒にだつたみんなも、とてもかわいくて、格好良くて……。えっちで。すみません、さっき、煩かつたでしようか。曙ちゃんと潮ちゃんに触られながら、あんまり気持ちよかつたから。それに、沈んだときのこと、あつて、さ、三人とも、泣いちゃつて……。でも、ぐす、嬉しかった。これから、もっと、したいです。

放尿

霞さんや不知火さんが、外洋ですのを見て、どきどきして……言いつつ、しゅい……つと勢いよくおしっこを飛ばす薄雲ちゃん。隣で轟沈しそうな叢雲ちゃんが、じよろじよろ……。と太めの水流を出している。……妹のお願いだからっ!!「二人ぶんの尿が流れた先で合わさつて、今度は……一緒だといひね。

初春型五番艦 有明

下着姿

白露ちゃんいわく「面倒くさい奴」という改初春型の彼女は、なるほど個性的である。サバサバした言動や身なりと裏腹にたいへん女性的な肢体……っていうか「ぱんつかわいい……」おっぱいでつつつか「へ、変な目で見んな露！ 邪魔なんだからコレ。それにお前だってけつこうなもんだろ。時雨は……まあ」「まあって何さ」「ぶんむくれる時雨ちゃん。これは心を許した相手にだけ見せる顔だ。」

胸部装甲・陰部

「いやいやいや……これはロンドン海軍条約違反じゃないの？」サラシの下から実に立派なバルジが。「だからお前んとこだってなんかすごいだろ！」時雨とかは……まあ」「もういいよ！」「はああ、でも見てください！」「うひゃあ！」

「おっきいけど張りがあって、ホラ弾むんですよ。永遠に触つでられます」み、三日月い……「実は睦月型有数のスケベ大王という三日月ちゃん、容赦なくお乳を揉みしだしてる。」「……下、立派……だね」濃い陰毛をガン見する時雨ちゃんもこのところ、すっかりそっち側に。

性器

「こっちは、柔らかいです……♡」容赦なく、くぱあ……と広げて鼻先を近づける三日月ちゃん。「えっちな匂い♡ 白露さんもホラ」「いい、いいのかな?」「お前今さら……へ、変じゃない、よな?」「うーん、みんなそれぞれけっこう違うから……でもあたしは、オトナっぽくていいと思う。……もう少し、触らせて。あんた、昔、いつの間にかいなくなっちゃった、から。今、もつと、知りたい……」「……ごめんな」

自慰

ソロモン方面での二十七駆は、トラックで面倒を見た関係でよく覚えている。ニギハヤヒで白露がひどく損傷し、長崎で修理しているあいだ時雨・有明で一小隊をやっていた。昭和十八年夏、米軍の反攻が再開し、夕暮に続いてこの二隻もラバウルへ進出。そのあと時雨はすぐにレカタ輸送、有明は数日おいて三日月とともにツルブ輸送へ赴き……二隻が再会することはなかった。有明の沈んだのは、ちやうど白露が出発した日。今、涙ながらに触れ合っている。喘ぐ彼女たちの心中は、いかばかりだろう。

放尿

「えへへ、どきどき……しちゃいます」しよおおお……わざと有明ちゃんに見えよう、三日月ちゃんは大股を開き、つるつるの割れ目から放尿している。「……かわいい、な」有明ちゃんのはしゅ……と勢いよく。「……ツルブで助けられなかったの、と恨まれてるかと思つてた……」「そんな! 元々私たちの仕事だったのを、加勢に来てもらったそばから、あんな……私こそっ」「もう、言いつこなしにしよ、白露ちゃんと時雨ちゃんが涙をぬぐって、笑いかける。おしっこを終えた二人も、笑ってる。

下着姿

「そんな、ヒトに自慢できるようなもんじゃないけどさあ。駆逐艦だし……」将来は気風のいい姐御になるかも、くらいの育ち具合な、ほんの少女である。涼波ちゃん。ポナペ島への陸軍部隊輸送でトラックへ来て、輸送を終えるとすぐにラバウルへ向かい、傷ついた重巡洋艦たちを護衛してトラックへ戻り、またラバウルへ向かつて、すぐに空襲で沈んだ短命な子。多くの艦とは記憶も共有していない。身内と言えるのは、内地の訓練部隊から一緒にいた藤波ちゃんや早波ちゃん、龍田さんや山城さんくらいだろう。

胸部装甲・陰部

「いやいいんだけど、これも身体検査みたいなもんだとして、なんで藤たちまで脱いでんの!?」 「さ、再会を祝して、もち!」 「涼波お姉ちゃんのおつるすべほでい、かわいい!」 「お前らそんな変わらんだろ!」 つてかこれから育つ……と思うし、少し……生えてるよ、ほら、す、すーちゃん、は、か、かつこい、から!」 「あゝあ、浜、ありがとな……そだよ、やつぱカツコよくなきや! あっそこダメっ!」 陰毛生えかけの未成熟な身体をまさぐりあう全裸の三十二駆……えーこれはあとで個人的に使わせてもらいます。

性器

「お、おお……こんななんだ、あたしの……」
 「涼波お姉ちゃん、まんこ、クリちゃんもひだも穴もちっちゃい♡」「は、はーちゃん、そんな言葉使ったらいいけない」「藤波お姉ちゃん、が使うからいいもん」「ま、まんこってでいうのかあ……なんかも……」「し、知らないぞ。天津風、これ、どうなん？」「し、知らないわよ！」「ぽっぽーと頭の煙突から盛大に噴き出し、そんな天津風さんがまじまじと覗きこむ。

「確かに、ほんの半日くらいのもものよ。ラバウルへ行く途中空襲を受けた日章丸の護衛に、鳥海さんと一緒に来てもらっただけ。でも、涼波との昔の付き合いはそれだけ。でも、それでも立派に『戦友』よ。駆逐艦涼波は駆逐艦天津風の戦友だった。あたしは、胸を張ってそう言える」「うん、天津風も、涼の戦友だよ。ありがとな。……あと、あ、あんま見ないで」

放尿

「これ、うんこ……こないだ遊びで海行つたときさ、なんかノリで撮っちゃつたんだよね……藤も早も砂浜しゃがんで、ちーつてやって撮りあいつこした。……そしたら自分でもビックリするくらい遠くに飛んじやって、ほら、ずいっと向こうまで跡が……思わずピースなんかしちやったけど、いやあ、なんか、だいぶハズいね……。ま、まあ楽しかったからいいか！ 明石さんにもあげるよデータ」

自慰

「うん、浜……かわいいよね。あたしがさつさと沈んだ後釜に入って、ずっと後まで一緒にいたのが、この子でよかった。けど、どう接したらいいかなって少し悩むところもね。いや、口数とかじゃなくてさ……たくさん、つらいことを経験したんだ、あたしの代わりについて思っちゃったから。それでまあ、船渠で裸の付き合いって一緒にいるうち……まあ、その、互いの、まんこだっけ？ 触つて、すごく気持ちよくなつたんだ。それでなんか、そんなこと拘らなくていいやつてね。みんな一緒にいんだからさ。ああ、玉姉もきつと来ると思うよ。マイペースだから、ふらつと、そのうちね。……そしたらまたこういうこと、するんだろ。ちよつとハズいけど、楽しみさ！」

夕雲型四番艦 下着姿

長波改二

夕雲型五番艦 卷波

夕雲型六番艦 高波改二

「ホレホレ巻波、顎上げな顎。もつと二カって笑いなよ可愛いんだから」「えへへ、ありがと長波姉……って、なんで艦隊のみんなへのご挨拶も早々に、こんなえつちな展開になっちゃってんのかな？」「さっき明石さんから聞いたとおりかも、です」「き、聞いたし長

波姉や高波や……こ、金剛さんたちのも見せてもらったけどお。もうちよつと心の準備が欲しかったかな……あ、あああ、長波姉のお胸が。……うん、高波のもなんとなく」「む、ちよつと失礼かもですっ！ 高波も最近ちばんどつけてますっ」「あ、ほんとだ。

うん、高波かわいい！ 前のときより育ってる！」「えへへ、嬉しいかも、です。巻波姉さまのお肌着もかわいいかもです」「ふふん、まあこれくらいはね？」長波姉のは子……な、長波姉は何着けても

かわいい！ 長波姉だから！」「んん？ なんかひっかかるけど、まあいつか。あたしも乳バンドつけたんだぜ、周りがうるさくてさ」「そ、そりゃあ被弾してナマで見えちゃったら大変なものソレ……」

胸部装甲・陰部

「いやー！ いやいやいや、これは！ これはちよつと本当に心の準備がっ」 「だ、大丈夫だって、ドツクだと思えつて！ 無灯火夜戦に比べりゃたいしたことねーだろ？」 「うう、まあ何もかも

ハッキリ見えちゃつてるけど……しゅごい、長波姉おっぱいおつきい」 「さ、触ってもいいぞ」 「……て、天国はここにあるわ」 「巻波のもぽよぽよでいいな、あはは」 「もー、長波姉のえっち。

あれ、高波は？ 高波？ なにフレディか高和みたいな顔してんのよ」 「これは現実かも？ 幻かもですか？」 「あー……なんか時々、こんな感じになっちゃうんだ。刺激が強すぎるとかなんとかで」 「……気持ちにはわからなくないけど。……会えて嬉しいな、高波にも」

性器

「なんかごめんな明石さん、あたしらだけで盛り上がったちゃって」
 いえいえ、こういうときはカメラマンに徹するから私。ささ、見せ
 たげて、ていうか見せて♡「う、そう言われるとさすがにハズいな
 ……よっこいしういち」セルフまんぐりがえし、というやつで
 お尻側から手を回していくばあとあそこを広げる長波ちゃん。「きや
 あ、な、長波姉大胆すぎっ」両手で顔を覆う巻波ちゃん、指のあい
 だからしっっかりガン見してる。「……はっ、意識が飛んでたかもで
 す。あ、長波姉さまのおまんこ！」「だ、高波どこでそんな言葉!?」

「巻波姉さまの、びらびらが薄っぺたくてピンク色……」
 「ふ、ふええ」「でも毛は長波よりしっかり生えてるわ
 よね。さすが夕雲んとこの子というか」「って、なんで
 裸で混ざってるんですか陽炎さん!」「んもう、他人行
 儀はナシよ。昔は二人でつるんだりしたじゃない、
 それこそルンガ沖夜戦でも」「それはそれで……だけど、
 わあハズいい……でも陽炎さ……ちゃんも綺麗」「さん
 きゅ。巻波もやっぱりかわいかったわ予言通り」

ぼつと赤くなる巻波ちゃんの初々しさが新鮮。「もう、前の
 ときの風雲姉さまと同じ反応かもですよ。高波だつて週五で
 オナニするんです。ほら、長波姉さまも前撮ったのより
 クリトリスさんが大きくなってるかもです」「う、うわ
 高波ちゃんの添えた指が陰核包皮を引っ張り上げ、露出した
 クリトリスを凝視して、鼻血を垂らす巻波ちゃん。「ま、まあ
 あたしも……するからさ。巻波……こっちも……触っ
 ていいぞ」「え、ええ!? ううんじゃあ……わ、わ、指……
 入れちゃった……ナカ、すごい熱い」「ん……う」

「そうそう、こいつ巻波の気配を感知したときからずっと
 『絶対可愛い!』って言いまくってたんだよ。しまいにや
 巻波がどう可愛いかで夕雲姉とケンカ始めてやんの。嬉し
 かつたんだな、よっぽど」「あ、改めて言われるとあたし
 もハズいんだけど……でも、会いたかった」「……私も」

「た……高波のは、けっこう……立派だったのよね前の見たら」
「えへへ、ちよつと、クリの皮とかびらびらとか大きいかもです。
はい……」「た、ためらいなく広げるわね……」すでにかなり蕩
けているところが、にち……と糸を引く。「濡れやすい……かも
です。今ももう気持ちよくて……」「高波はえっちだからなあ。
あ……なんか穴広がつたか？」「ひとりですすぎたかも、です。
巻波姉さま、処女膜がなくなるとこんなふうになるかもですよ」
「そ、そうなんだ……なんか裂けちゃつてる。長波姉ともよく
するの？」「長波姉さまには、撫でてもらったり、ちゅつてして
もらうだけで、高波は幸せだから。あと……あの人にも」

白慰

大きなおっぱいに両側から挟まれつつ、激しく指で膣をほじる高波ちゃん。ちゅうちゅうと吸っているのは……
あの日、ルンガ泊地沖で戦ったフレッチャーさんのたわなお乳。その日、その場にいた巻波ちゃん、最初は表情を
こわばらせていたけど、「……こういう関係に、なれるのね」と独りごちた。陽炎ちゃんが、そつと手を握る。
「戦争に行っただけで敵なんかいなかった、いたのは人間だった……」つて言葉を聞いたことがあるけどさ。ここに
いるのは、女の子どうし。そういうことなんだと思うわ。もじかじたら、深海のお姫さまとかも、いつか……」

昔、因縁のあった艦娘と絡むことで性感が増し、情緒の安定にも寄与する……というわけで、まだ「娘」の身体や性行為に慣れない巻波ちゃんを、白雪ちゃんと天霧ちゃんがまさぐっている。さらにたまに指でつついたりする卯月ちゃん。白雪は最初のガダルカナル島撤収作戦往路で空襲を受け、中破した巻波に代わって増援部隊指揮官の旗艦となり、以後三回の指揮をとった駆逐艦。天霧・卯月は巻波・大波・夕霧の沈んだセント・ジョージ岬沖海戦で生還を果たした艦だ。……顕現してしばらく、巻波ちゃんには不安定なところがあり、赤ん坊のように夜泣きする彼女に白雪ちゃんたちが添い寝することもあった。今、白雪ちゃんと天霧ちゃんにお胸を刺激され、ぞくぞくと絶頂を繰り返している巻波ちゃんのおまたは、膣と指の隙間からとろとろと白濁した愛液を垂れているところ。うんちゃん、がすくって舐めたり、直接おまたやお尻の穴を舐めたりして、また巻波ちゃんの身体が跳ねる。……私も撮りながら思わず自分のを。

長波ちゃんの自慰は二次改装からだいぶ激しくなったと、少し自慢気味に言われたことがある。駆逐艦娘でも有数の恵体に比べて、どこかやっぱり稚気の残る言動は、多くの艦娘に愛されている。そんな彼女にも、やはり心の傷はあるようで……最後の出撃となった、第三次多号作戦輸送。当時の旗艦だった島風ちゃんと相對することができたのは、実は長波ちゃん以上に深い傷を抱える朝霜ちゃんが来て「ハラを括って」からのことだった。いつも豪快な長波ちゃん、飄々とじた島風ちゃんがあんなふうに泣くのを私は初めて見た。

かくて、後ろから島風ちゃんにお胸を盛大に搾られ、大きなクリトリスを指でしごきつつ、信管を抜いた酸素魚雷をデイルドに代わりにする激しい自慰を、長波ちゃんは体得したのだった。うわすっごい潮噴いてる。

放尿

「えと、大浴場で長波姉と高波とおしっこします。何がどうしてこらなっただのか、なんだけど」

「三十一駆の後から来た、沖波と岸ちゃん、朝ちやんもお呼ばれして、それでその……盛り上げちゃうまじして」

「あなたに舐めたり舐められたりされて、気持ちよすぎたかもです。まだおまんこひくひくするかも、れす」
「その余韻で、気持ちいいおしっこ出してる記念撮影……かな」

「いや、みんなに気持ちよく連れションしてるっただけで、どこからこの身体もらった値打ちはあったんじゃないかな……あたしも、立てねえ」「なんだ、い、今どんな感情なのかよくわかんねえや。でも……きつと、いびきとんだと思っ」

松型二番艦

松

下着姿

「すみません明石さん、よつがなんか面白がっちゃって……」「あねごと、あかしさん、こーんなかんじー?」「え、ええそんな……感じ」「……明石さん、松決してろりこんとかじゃないですから!」「私も、昔、顔を合わせたことのない、対空・対潜を強化した戦時急造の丁型駆逐艦。その最初の姉妹たちが三隻(三人?)やってきたのでさっそく例のやつを……!」ということになり、真面目な松ちゃんも照れながらも積極的に承諾した。

第二号型海防艦二番艦 第四号海防艦

ところがところが、彼女には「おまけ」がついていた。松に座乗する第二護衛船団司令部が指揮し、米機動部隊と水上部隊の襲撃を受けて壊滅した第四八〇四船団の数少ない生き残り、第四号海防艦——「よつ」と自称する海防艦娘。あまりに小柄……というか、幼すぎる少女だった。夕張をはじめ、名だたるロリコン艦娘たちがたじろいだほどに。このとおり、一切の羞恥心なくワンピースをめくり、幼児用のおぱんつを披露している。



「……」 「……」 「……さ、さっきノーブラだったよね」「あ、松型のは服のほうにカップがついてるので。さすがに何も無いとちよつと痛い……程度には、ささやかながら」「松のあねこのおっぱい、さわるとぽよぽよするんですよ。よつも、ぽよぽよ、なるかなあ?」「な、なるんじゃないかな? ねえ明石さん」「そ、そうねえ、そのうちね」ぐぬぬ。この明石、海防艦娘の撮影経験もあるし、正直内角低めにも対応してるけど、これはなかなか鋭角にえぐってくるフォークボールで……八丈ちゃんや福江ちゃんよりもさらに幼い、問答無用の幼女がそこにいる。二次性徴の兆しすらない、男の子との違いがおまたにしかないような身体。幼児特有の深い割れ目。「……松ちゃん、わりと……ドキドキしてる?」「そ、そんな! ただ「昔」の縁もあるから、よく相手してあげて……添い寝してあげたり、お風呂に一緒したり、……海でおといれさせたり……」「うん、皆まで言わぬでよろしい」「ううう」

胸部装甲・陰部



「あ……旗風先輩に……」昔、駆逐艦松としての短い生涯のあいだ、横須賀防備戦隊で共に小笠原諸島方面の輸送護衛に従事した旗風ちゃんに付き添ってもらったと、松ちゃんが明らかに蕩けた。「素敵な……先輩です。あのとき、無事に横須賀へたどりつけたって聞いて……」

「貴女のこと……ずっと、覚えていました」松ちゃんの額に額をくっつける旗風ちゃん。そんな尊い光景のあと、このとおりしどどに濡れた松ちゃん、女の子の秘裂が旗風ちゃんに改められている。「かわい……松さんの、女の子のところ。桃色で、とっても綺麗です」ちゅ……と唇を付けて溢れるおつゆを吸る旗風ちゃん……すっごく、手練れた感じで、膣回とお尻の穴がきゅっ……きゅっ……と収縮している。

白慰

「松、さん」「はーっ、はーっ」旗風ちゃんに唇、舌、おへそ……乳首、あちこちを吸われながら一心不乱に膣内をかき回す松ちゃん。旗風ちゃんも片手で自分のを貪りながら、びくっ……びくっ……と震え、それが甘噛みする歯を通じて松ちゃんに伝わって「あうう……」じゅっ、じゅーっ……と潮が飛ぶ。もうお尻まわりはびじよびしよだ。「あおっ、お……っ」いささか品のない声を漏らし、二人揃って深く、深く果てた。きよとん、と見ているよつちゃん「わああ、い、いたの!」「あねご、いっぱいいきもちいい、ですか?」「」

「よーつも、おまた、開きますね」無邪気に、実に無邪気に、仰向けに寝転がったよつちゃんが、大腿を開いて、割れ目をぐいっと広げる。「わ、わあ……」完ッ全に、幼児の性器だ。クリトリスなんて見えやせず、小陰唇はその根元と大陰唇のあいだに張っている少し厚い膜程度。膣口なんて鉛筆も入らなさそう。「お、オホン！ オホン！」わざとらしく咳き込む松ちゃん。「……かわいらしい、ですね。とても小さくて、真っ赤になって、覗きこんでいる旗風ちゃん、禁断の扉を開いてしまったらしい。「松のあねごー、どんなふうですかあ？」

「……よつも、たくさん気持ちいいの、したい？」「あねごー、してくるなら！」



「痛く……ない？」「だいじょうぶですー、よつは、じょうぶなので！」よつちゃんに両足を抱えさせ、それを後ろから抱き止める感じで、そっと割れ目を刺激する松ちゃん。「海で、あねごーにおしっこさせてもらうときも、こんなふうですよー」「うん、そのときは……松がよつの足抱えてる、からね」「……見てみたい、かも」あー、同感だけど旗風ちゃんがどんどん……。「あねごー」よつちゃんの声色が変わってくる。「気持ちいい？」「うん……ふわふわ、ふわふわするですっ」「割れ目さんの上のとがってるところ、とんとんって、するからね。とんとん、とんとん」「ん……んー……あねご、おしっこ、出そう」「いいわよ……松も、たくさん気持ちよくなると出ちゃうことあるから。おしっこ、松と明石さんと旗風先輩に見せたげて」「うー……」ぶるぶるっと身を震わせるよつちゃんの、もう随分濡れた割れ目からじよろじよろとおもらしが。なんとなく掬って舐めてみる。おしっこだ。「きもちいいおしっこ……よつつ、でてる……」



放尿

「き、記念写真撮るようなことじゃ……なんと思っただけぞ」
 「松のあねこにきもちいいおしっこ、させてもらっただから、
 よつのおれでっすー！ あねこは、いや、ですか？」、「う……」
 そんなことないわよ、よつがおれっつていうなら、もちろんなら
 だくわ。……竹や桃に見られませんように」



というわけで、姉貴分と妹分のような駆逐艦娘と海防艦娘が
 連れシヨンの図である。



「松のあねこは、とつても、かつこよかったんですよ。よつ、
 あねこの言うとおり、ふねをまもつてよこすかく戻りました。
 あねこは、ひとりできに向かったんです。……よつのおぼえ
 ているあねこは、そうでした。もしかしたら、ほんとはすこし
 ちがうのかも知れません。あねこは、にげられなくて……で
 も、よつのなかでは、松のあねこは、よつたちをにがすために
 ひとりでたかった、ぞくかん、なんです。いつまでも」

御蔵型六番艦 屋代

下着姿

えーと、どう反応したものでしょうね？「や、屋代です」「御蔵……です」「鹿島です♥」
「「三人合わせて、第百二戦隊です」」……まあわかるのだけど、屋代ちゃんを撮る
というより、半裸の女兒連れて半裸で殴り込みかけてきた銀髪のヤバい女といえますか。
「私はただの旗艦です。のでどうぞお気になさらず。ささ、えろ可愛く撮ってください♥」
ずいずいと前に出され、はにかんだ笑みを浮かべる御蔵型海防艦娘の二人。見比べると、
次女の屋代ちゃんのほうがぱんつ含めて、いくぶん色っぽさがあるような。いうてお胸も
無きに等しい女兒ですけども。



胸部装甲・陰部

「身体はこんな程度……ですけど、けっこう……こういうことに関心あるほうです。とても、ドキドキしているんです、いま」幼さに不釣り合いな、なんとも艶っぽい、熱っぽい潤んだ目でほほ笑む全裸の屋代ちゃん。でも、本人も言うとおおり、まだ腰のくびれもほとんどなく、つるんとした割れ目が性徴の兆しの片鱗をそろそろ覗かせるくらい。隣には、バシー海峡で対潜掃蕩隊を組んでいたという朝風ちゃんがやはり一糸まどおぬ姿で寄り添っている。

性器

「聞いたわよ、旗風のこと。まあ、古い駆逐艦は後方で船団の護衛に就くことが多かったから、海防艦とは浅からぬ縁があるの。私もこの子だけじゃなくて、松輪とか……その、見たでしょ」
「松輪ちゃん、気持ちよさそうで……あれ、見ながら、自分がされてる想像して、何度も……」
致しました。見て……今も」言いつつ、屋代ちゃんが広げたあそこは、確かに充血しながらも、やっぱりどうにも幼いかたちのままだ。「おまんこ、かわいい」ちよん、とついばむように朝風ちゃんがそこをひとめして、屋代ちゃんが甲高く蕩けた声を上げる。



放尿

「対馬ちゃん……戦後の、民国での思い出のほうが多いお友達です。あちらへ引き渡されて活躍した艦は雪風さんがいつとう名高いですけど、私たちのような小型艦艇もいたこと……知ってもらえたら、嬉しい」
「これは……ふたりの、ひみつの、あそびです」じよ
「おお……わざと見えやすいような格好で、しゃがんで一緒におしっこを出す屋代ちゃんと対馬ちゃん。」



自慰

「んやあ、あたかも二応興味はあんだよ
こういうの。いくらなんでもちびつこす
ぎねーか、とは思ったけどよ……話聞
くと、あの……海上特攻から落伍したあ
とのあたいと会ったつてんだ。あたいは
全然覚えてねーし、なんかの思い違いか
もしんねーけど……そういうことになっ
てんなら、何も言えないや。もし、あた
いのことそうやって覚えててくれて、そ
んで……こんな感じなら、それは嬉しい
もんな。……まあこういうの、あたいか
んま上手くないし気持ちいいのかわかん
ねーけどな」



松型二番艦 下着姿

「けっいたいなことをするもんだ」仏頂面の少女がぱんつ一枚で仁王立ち。「別に恥じるところはないけどさ。日夜鍛錬は欠かささない。どうもこの艦隊は生っ白いのが少なくないが、少し気合い入れたほうがいいんじゃないか」なるほど、文字通り肉付きがいい。脂肪ではなく筋肉。運動系の部活のレギュラーにいうさうだ。……それにしても「ん？ ああ乳バンドはないよ。服になんかついてるし、それ以外でなんか着るでもないしな。……なんだよ、あんまじろじろ見るなよ。別に恥ずかしくはないぞ！」

胸部装甲・陰部

「でも女の子なんだし、ブラくらいもとうよ。清霜が選んだげるから！」と、乱入した清霜ちゃんの巻。「清霜さんが言うならと着けてみただけ、どうも窮屈で落ち着かねえや。……っていうか、おい！ なんで下を脱がされるんだ！ き、清霜さんまで！ いや、さすがにそこはそう人に見せるもんじゃない……」

性器

「は、恥ずかしくはねえよ……」さすがにいくぶんしおらしくなった竹ちゃん、おずおずと右の指で陰裂を開く。「よつと」それを右手で、さらに広げる清霜ちゃん。「清霜のより上のぼつちりが大きかったり、ひだひだがちよつとフクザツだったりしてオトナっぽい。竹ちゃんは強かったからなのかなあ」「か、関係あるんすかね……？」「ほら、清霜のはこんなだよ。お毛毛もまだ生えないの」「う、わあ……初めて見ます……こうなんすね……おう……」ぱかっとうと広げられた清霜ちゃんのおまたを、竹ちゃんが真っ赤な顔で凝視してる。尊い。

自慰

「なんか……すごい体験しちゃったな。うん……気持ち、よかつた。へへ。清霜さんだけじゃなくて五月雨まであいうことしてくるとはね。……ん、五月雨はな、もう艦を放棄するつてときに救助に行つた。……オレが最期を看取つたんだ。桑んときは、助けることもできなかつたけど。……今の五月雨は、元気そうで、安心したよ。言つとくが、五月雨だつて歴戦の武勳艦なんだから。……かわいい、けどさ」

放尿

洋上では下を少しだけ下ろすとお尻を後ろへ突き出し、お腹へ力を入れて、じよばばと排尿するそう。……いっいつ敵の奇襲を受けても即応できるように……おい五月雨、そんな近くで見たらかかっちゃうよ、ぼつちいから」「ううん、とつても……えっち」「ええ!? そ、そうなのか? ……な、なんか急にむずがゆくなつてきたんだが、腰下ろして……小便していいか?」「ダメ♥」

桃松型四番艦

下着姿

いや、けっこうね私ドキドキしちゃったのよ。「丁型駆逐艦のアイドル・桃！」ちゃんが顕現したとき、もう全員の目が那珂ちゃんに向いたもの。那珂ちゃんやっぱプロ意識高く、こういうときは必ず駆けつけて場を盛り上げようとするから。その場が一瞬凍りついたわよね。芸歴5年の艦隊のアイドルと新人アイドルのあいだで、仁義なき抗争が勃発するんじゃないかと誰しもが思うでしょう。そしたら那珂ちゃん言ったわよ「か・わ・い・い!!!」

胸部装甲・陰部

ある意味では那珂ちゃんの怖さであって、自分を脅かす存在なんかいないって絶対の自信があるからこそ「推せる! 桃ちゃん推せる!」なんて胸張って騒げるわけでしょう? さすがだと思いましたが、ええ。そして、新人のリスベクトを勝ち得た結果、こんなことになってるわけ。芸能界って怖い。あとはもうアイドルのお三人に任せて明石は黙々と撮ります。



性器

「桃ちゃんの桃まん、今日もカワイイ★」でもお、アイドルなんだからヘアのお手入れを欠かしちゃダメだよ？」「ごめんなさい、いしばらく出動訓練続きで」「プロは言い訳しないの！今日はあ、優しい那珂ちゃんが刺っであげるから、次からちゃんとしようね♡」

「はあい♡」「そ・の・ま・え・に……ひろげて、よく見せて？」「ん……♡」「すごい、濡れてるえっちなりまん♡」那珂ちゃんはおつきて、外に出ちゃってるもん」「桃はあ、那珂ちゃん先輩のおまんこ推せますよ♡」「推されちゃった♡♡」

放尿

「ん……お毛毛、なくなちゃった♡」「つるつるで綺麗だよ♡」……那珂ちゃん先輩、桃ね……しよりしよりされるの、よくて、出ちやいそう……♡」「おしっこするのぉ？いいよ、出して♡」那珂ちゃんにかけてっ♡」「あ、ごめんなさい♡、すごい出る♡」「はああ……♡」推しアイドルの推しっこサイコーに美味しい♡

自慰

「おしっこしたあと、那珂ちゃん先輩がオナニト始めちゃって、桃もすっごく興奮したからその場で……イキまくって、こんなびちよびちよになっちゃった。那珂ちゃん先輩と、しっぴり目合わせながら、三人で一緒にイッたよ。ぴすぴす……あ、また、おしっこ出ちゃう♡」明石さん撮って撮って♡♡」

Scirocco

下着姿・胸部装甲

「んー、Che」マエストラーレ級の部屋からのそのそと這いずり出てきたのはぱんつ一枚の新顔たる末妹と、時すでに全裸の次女だった。「Mi dispiace! シロッコにつられ寝坊しちゃって」「で、なんでマッパ?」「ゆうべお風呂上がり sega して、そのまんま寝落ちしたみたい。姉さんとりべは外かな? 今日のこととは知ってるからそろそろ戻ってくると思うよ」「四姉妹勢ぞろいは壮観ね。というか、あうぐり」「Prego! ほら、シロッコ、mutandine 撮ってもらいな」「んー、うん……」「心なしか、他の三人のよりも幼げなぱんつに見える。体つきも、かなり。」

陰部

「まあここはもうみんな、あんな変わんないよね。あたしも一年で de がつり生えるわけじゃなかったし。今後に期待だね」「うーん、白人女兒の割れ目激写。もはやニンゲンでは許されない所業よね……」と思っていると、ぱんつを下ろしていたシロッコちゃんがふいに「あ、出る」突然じよろろろ、とおしっこを漏らしでしまった。「Eni? まだ早いよシロッコー! Smettila! Smettila!」「うう、止まんない……」「じよろろろろろ、ちよろろろろ……」「あー、もう全部出しちゃいな。寝る前にトイレ行かなきゃダメだよ。あとで姉さんからお説教だねこれ」

性器

「ここは姉さんに検分してもらおうよ、長女として」
「ちよ、長女としてなら……シロッコ、行くよ」
「……と生唾を飲み込んだマエストラーレちゃんが、
おもらしを拭いた（長女は腰に手を当ててため息をつ
いた）（ただだった）ばかりのおまんこをそっと広げる。
姉妹ではやっぱり、一番幼い見た目。「così carina」
少し潤んだ瞳のグレカールちゃんがつぶやく。

放尿

グレ「ここまでするとはちよっと……予想外、
かなあ」リベ「せつかく四隻そろったんだからさ、
commemoranteはなんでもやっこうよ。ほら、
シロッコと真ん中寄って、じゃがんで、はいっ」

グレ「che imbarazzante」マエ「い、意外に照
れるのねグレも」シロ「でも、グレちゃんたちと
こうして一緒にpipiするの、あたし楽しいよ」

白慰

いわく「グレちゃんに習った」という、陰核包皮を指でタップ
するやり方が気持ちいいらしい。「あ、あ、あ、」声色が変わって
くると、グレカールちゃんがまたの前に両手を差し出した。
「いいよ」

しよろ「しよろろ……ひくひくつと開き気味の陰裂が収縮し、
二度目のおもらし。」シロッコは出やすいんだ。あたしが……
全部受け止めるの。pipi...che calda...」

マエ「ずっと……シロッコに会いたがつてたもん
ね」グレ「よかったね」グレ「……ぐすっ」

おしっこれくしょん 駆逐艦編 八
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.32

発行日 2021年08月15日

発行サークル LUNATIC PROPHET
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@lcl_purified

印刷所 株式会社 くりえい社
web <http://www.kurieisha.co.jp/>

produced by Lunatic Prophet
2021.08.15.

待て、待てって！ まだ×××
わけにいかねーし...